

保健センター窓口で相談受付

衛生動物部門では、生活衛生課が所管する花粉調査を保健センターと合同で行っています。ある保健センターに花粉の付着したスライドグラスを回収に行ったときの事です。衛生課の受付で保健所の担当者と市民の方が話し合いをされていました。私たちの顔を見るなり、「衛生環境研究所で害虫関係の仕事をしている担当者です」と市民の方に紹介されました。受付には、多数のハエが入った牛乳瓶が置かれていました。保健センターの担当者は「クロバエ科の仲間だと思のですが」と説明したうえで、拡大鏡とハエの入った牛乳瓶を私に差し出しました。拡大鏡で観察をすると、体の形や色、翅脈 M_{1+2} が前方に屈曲しているなどの特徴が確認できました。「恐らくクロバエの仲間でしょう。研究所に持ち帰り、詳しく調べます」と答えて、保健センターを後にしました。

ホホアカクロバエ

オオクロバエは、以前の「衛生動物だより」で紹介しました。今度の検体もオオクロバエかと思っていたのですが、鑑別の結果は、ホホアカクロバエでした。名前のとおり頬（ほほ）に赤みが掛かっているのが特徴の一つです。

市民の方には、「恐らく、ホホアカクロバエ成虫が大量に出てきたのは、天井裏などにネズミの死骸（しがい）があり、それを餌にして幼虫が育ち、そして、羽化したものと思われます」と説明しました。

生息分布

昭和40年初版の北隆館発行の「原色昆虫大図鑑Ⅲ」のオオクロバエの記載のなかでホホアカクロバエが紹介されています。その中でホホアカクロバエは、欧米に広く分布しているが、日本では北海道のみの分布であると記述されています。ところが平成2年初版の日本ペストコントロール協会発行の「原色ペストコントロール図説第Ⅲ集」の中の記述の中ではホホアカクロバエは東京都内で普通に見られる種類と記載されています。徐々に南下しているようです。

今回、京都市内でも確認されたことから、やがて京都市内においても普通に見られる種類になる可能性があります。

有弁翅類

クロバエ科、イエバエ科、ニクバエ科、ヒメイエバエ科など一般的にハエと呼ばれる多くは、有弁類の仲間です。有弁類とは、翅の後ろにある鱗弁が大きく、平均棍（へいきんこん）と呼ばれる器官を覆っています。

ホホアカクロバエは、有弁類のクロバエ科の仲間です。クロバエ科の仲間で見やすい特徴の一つは、 M_{1+2} と呼ばれる翅脈が前方に屈曲していることです。しかし、有弁類の仲間には、 M_{1+2} 脈が前方に屈曲している種類は、多くいます。日本環境衛生センター発行の「ハエ・蚊とその駆除」の中にハエ類の検索表が掲載されており、その検索表に従うと、中脚と後脚の基部の上にある下側板と呼ばれるところに剛毛があること、背側剛毛が2本であることなどの特徴が記載してあります。

また、クロバエ科の仲間には、金属光沢の体色を持つものが多くいます。このホホアカクロバエの腹部も一見黒色に見えますが、光を当てたりすると濃い青色の金属光沢を放ちます。



ホホアカクロバエ


翅脈 M_{1+2}


赤い頬(ほほ)



鱗弁

平均棍



背側剛毛



下側板剛毛

後脚基節

後脚基節